

# 創星会

題字：星 猛 元静岡県立大学学長

発行者 創星会

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

(静岡県立大学内)

(食品栄養科学部 食品化学研究室)

TEL: 054-264-5543

HP: <https://www.us-souseikai.com/>

E-mail: [souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp)

## ★創星会とは★

静岡県立大学食品栄養科学部および大学院食品栄養科学専攻・環境科学専攻(旧:大学院食品栄養科学専攻)の卒業生・修了生と教員からなる会です。創立は平成7年11月4日で、現在会員数は約2,500名となりました。本会は、会員相互の連絡協調および会員と母校との連絡をとりまとめ、会員や母校の発展のために活動しております。「創星会」という名称は、本学部の独創性を反映させ、また、卒業生の中からスターとなるような人物を生み出したいという思いから、諸先生方が命名していただきました。

## ご挨拶

### 食品栄養科学部長 伊吹 裕子



本年4月に11代目の食品栄養科学部長を拝命しました。創設時に掲げられた食品栄養科学部の理念と目標、そしてこれまで築き上げた歴史を受け止め、これから本学部がさらに発展するよう尽力したいと考えております。

昭和62年に創設された本学部は、「食」と「健康」を中心に学生教育、研究を継続して行ってきました。平成26年には環境生命科学科が加わり3学科体制となり、食と健康の問題、そしてそれを支える環境の問題など、広い意味での「食」を学べる学部となりました。この「食」、「健康」、「環境」というキーワードですが、最近の社会の変化に伴い、これから私たちが対峙しなければならない重要なものとなりつつあります。例えば、昨年からの戦争や昨今の異常気象などは、世界的な規模で、深刻な食料不足や食料価格の高騰を招いています。食料の増産、食品廃棄物の削減、そして温室効果ガス排出の削減は待ったなしの状況です。

また、高齢化が進み社会コストが増加する中、健康長寿を維持する食事・生活習慣の提案が求められています。「食」、「健康」、「環境」に関わる教育、研究が今後の社会で果たす役割は大きいと考えられます。さらには、最近話題のAI、IoT、ChatGPTなどは、今後の食料生産や食の販売の在り方を大きく変えることになるでしょう。昨年度より本学部でも新たに「データサイエンス・AI」という講義が開講されています。変革の時代を考慮した学部教育や研究を少しずつ進めていければと思っています。

これまで多くの卒業生の皆様が、民間企業、官公庁、病院などでご活躍の様子を、ホームページなどを通して拝見させていただきました。食品栄養科学部がさらに発展し輝ける学部となるためには、社会で活躍されている皆様のご意見やご助言は大変貴重なものです。今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

## 第15回 創星会(ホームカミングデー)を開催いたします

今年度も昨年度に引き続き、ホームカミングデー(第15回創星会)を開催致します。

大学祭(第37回創祭)1日目に学内に創星会ブースを設置し、社会で活躍する卒業生・修了生をお招きします。

卒業生・修了生と在学生との交流はもちろんのこと、卒業・修了生同志も久しぶりに顔を合わせる機会として、ご好評をいただいております。

皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

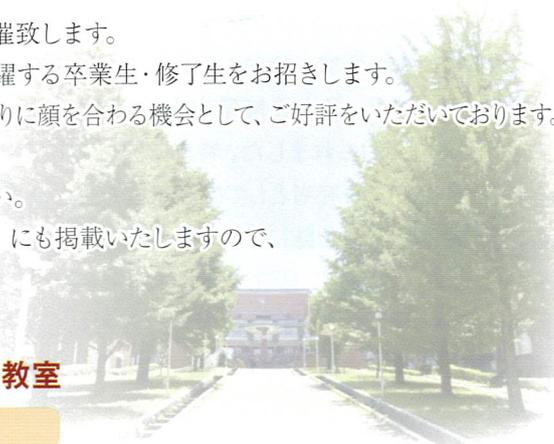
ホームカミングデーの参加は無料ですので、直接ブースにお越しください。

開催の詳細は創星会ホームページ(<https://www.us-souseikai.com/>)にも掲載いたしますので、ご確認をお願い致します。

【日時】令和5年10月28日(土)

【場所】食品栄養科学部棟3F 5314教室、5319教室

詳細は同封のご案内をご覧ください。



## 大学院薬食生命科学総合学府／大学院食品栄養環境科学研究院長 三浦 進司



創星会会員の皆様、こんにちは。令和5年4月より2年間の任期で大学院食品栄養環境科学研究院長を拝命しました三浦進司です。創星会会報の誌面を通して皆様にご挨拶できることを光栄に感じております。さて、2022年11月30日にChat GPTがプロトタイプとして公開され、私たちは瞬間に産業革命にも匹敵する新しい流れに巻き込まれようとしています。Chat GPTをはじめとする生成系AIは、ある部分では人間に匹敵するような能力を発揮することから便利なツールとして利用が拡大しています。その一方でさまざまな問題が指摘されており、私たちには生成系AIの問題点を把握しながら正しく使いこなすことが求められています。ご存じの通り2023年5月8日よりCOVID-19の感染症法上の取り扱いが5類感染症に移行され、大学は以前の活況を取り戻しつつあります。また、学内での教育・研究活動に加え、学会などもオンラインから対面での開催に移行してきております。学会のオンライン開催は、移動を伴わずに参加を可能とするメリットがありましたが、久しぶりに対面開催の学会に参加しますと、研究者間の交流や情報交換といったいまだアナログな部分でその良さを改めて感じます。本学大学院では、アナログの良い部分を残しながらも時代の変革に柔軟に対応し、創造的な研究活動の場を提供することにより学生の成長と将来の可能性を広げることを目指しております。創星会会員の皆様には引き続き本大学院における教育・研究活動へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 追 悼

### 高瀬 幸子先生を偲んで



高瀬幸子先生（静岡県立大学名誉教授、長崎県立大学名誉教授）が、2022年12月20日（火）にご逝去されました。享年88歳。ここに謹んで追悼の意を表します。

先生は、1973年に本学の前身である静岡女子大学家政学部講師としてご着任された後、助教授を務められ、静岡県立大学の新設時には、星猛先生をはじめ新設当時の諸先生方とともに食品栄養科学部の礎を築くためにご尽力され、その後も学部長なども歴任され本学の発展に大きく寄与されました。本学ご退官後も県立長崎シーボルト大学・大学院（現長崎県立大学）と浜松大学・大学院（現常葉大学）でそれぞれ6年間、いずれも新設の創成期からご尽力され研究科長等も歴任されました。これら長きにわたり多くの大学生・大学院生を育成されました。

先生は、静岡女子大学在職中に米国ヴァンダービルト大学医学部のFrank Chytil先生のもとでビタミンAに関する研究に取り組み、その後の研究業績やビタミンA研究への貢献が日本栄養・食糧学会学会賞受賞やビタミン学会功労者として高く評価されました。私は4年次に先生の栄養生理学研究室に配属され、高瀬先生と当時助手でありました合田敏尚先生のご指導のもとビタミンAの研究を大学院博士課程までさせていただきました。現在私が長崎県立大学でビタミンAの研究を継続しているのも、高瀬先生からその研究の面白さや厳しさ、奥深さを教えていただいたことが大きく影響しています。私が長崎県立大学に着任してからも先生は年に数回は私の研究室に訪問され、いつも研究や教育への思いを熱く語っておられました。特に研究に対しては80歳を過ぎてからも学会の参加や発表もされ、最新の研究論文にも興味を持たれており、研究者として生涯現役を貫かれました。

高瀬先生の退官記念誌に「新しい発想は常に学んでいるところに生まれるものであり、何もないところに惣然と湧き出てくるものではない。従って、研究者は生きる限り学びと真理探究の連続である。このことはどの職業にも言えることであろう。」と記されています。この言葉が卒業生の皆様にも伝わることを高瀬先生は期待されていると思います。

高瀬先生の残された確かな足跡を偲びつつ、改めて追悼の意を込めてご冥福をお祈り申し上げます。高瀬幸子先生、ありがとうございました。

長崎県立大学看護栄養学部（食品栄養科学部1期生） 駿河 和仁

## 叙勲受章のご報告

令和4年秋の叙勲において伊勢村護名誉教授が、令和5年春の叙勲において木苗直秀名誉教授が、長年に渡る教育研究の功勞に対し、瑞宝中綬章を受章されました。心よりお祝い申し上げますとともに、益々のご健勝を祈念いたします。

受章された伊勢村先生と木苗先生より、喜びの声といたしましてご寄稿いただきました。

### 令和四年秋の叙勲に寄せて 伊勢村 護



創星会の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。このたび、創星会報誌より昨秋の叙勲に  
関し寄稿のお誘いがあり、大変光栄なことと思ひ、ここに一言寄せさせていただきました。  
昨秋の叙勲受賞者は3999名で、私が受けた瑞寶中綬章は268名で、功勞概要は教育研究功  
勞でした。27才から65歳までの38年間、大学に教職の籍を置きましたが、この間45才の時、  
静岡女子大学に任用され、1年後に静岡県立大学（1987年設立）兼務となり20年間、静岡の  
地で教授職を務め、大勢の学生諸君と接して参りました。食品栄養科学部の星猛初代学部  
長の後を引き継ぎ、1993-1997年学部長、1997-1999年大学院生活健康科学研究科長を拝  
命しました。学部長になってすぐに同窓会設立への思ひを強く感じました。静岡薬科大学が  
移行した形の薬学部には同窓会がりましたが、同窓会のあつた静岡女子大学はそのまま  
県立大へ移行したわけではなかつたので、独自の同窓会ができることを切望していました。

第一期卒業後1年後の平成5年(1993年)に後藤慶一君らが中心となり同窓会が開かれたこ  
とから、後藤君に声をかけ、二期生佐藤弘和君ら数名とともに学部長室において会合を持ち、数  
回の会合の中で女子大の同窓会会則を参考にして、「総会は、正会員で構成し、2年に一度会長  
が招集する」こと等の会則が決めていきました。名称は、学部創設に情熱を注がれた星先生に因み、またスターを輩出すること  
を願つて「創星会」と決まりました。2代目学長となられた星先生にお尋ねしたら、「そうせい」とおっしゃつたとかおっしゃらなかつた  
とか？ 星先生が題字を揮毫された会報第一号は、1996年2月に発行されました。次はロゴマークが欲しいところです。すでに一期生  
からの教授6名、准教授3名の輩出をはじめ、他にも大勢の活躍が見られるのも頼もしい限りです。創星会の皆様のおかげもあつて、  
有意義な人生をこれまで送つて来れたことに深く感謝しつつ、創星会の皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祈りしております。

瑞寶の譽恵みし創星会弥榮祈る外のことなし

### 春の叙勲によせて 木苗 直秀

創星会会員の皆様にはお元気でご多用の毎日をお過ごしのことでしょう。

私が、静岡県立大学の学長職を辞して、早や8年が過ぎました。思い返すと18~72歳までの50余年間を大学で過ごしたこと  
になり、私の人生そのものが大学と共にあつたと言えます。今年に入り、本学から叙勲推薦のお話を頂き、令和5年春の瑞宝中綬章  
を拝受致しました。思ひがけず叙勲という榮譽に浴したことに大変驚くとともに皆様方が未熟な私にお力添えをしてくださつたお  
陰とありがたく思つております。この機会に自身のやつてきた仕事や暮らしを振り返つてみました。私は、沼津市の出身で、自宅か  
ら通える理系の大学ということで県立の静岡薬科大学に入学いたしました。衛生化学教室に所属しアミノカルボニル反応に対す  
る研究手法を厳しく御指導頂きました。朝から夜遅くまで、研究室が私の生活の場でした。昭和62年に静岡県の3大学が統合さ  
れ、静岡県立大学になつた当初は小鹿にある薬科大と谷田の県立大を行き来する毎日でしたが学生達と研究し、スポーツをし、  
各行事にも積極的に参加する楽しい日々でした。学部長、学長をなさつた星先生には研究や教育の重要性を丁寧に御指導いた  
だきました。仕事面だけでなく、テニス大会（星杯）で先生とご一緒に汗を流したことは良い思い出です。この様に、充実した楽し  
い研究生活を送らせて頂いた上に叙勲という褒美を戴くこ  
とが出来て感謝の気持ちでいっぱいです。又、7月1日には  
「叙勲祝いの会」を食品衛生学研究室の増田修一先生、  
島村裕子先生をはじめ卒業生の皆様方が心を込めて準備  
してくださり和気あいあいとした時を過ごさせていただきました。まさに教員冥利に尽きる一日となりました。培つた先  
生方や学生の皆様は私の大切な財産であると思つておりま  
す。健康に留意しつつ微力ではありますが皆様方に恩返し  
ができたと思つております。叙勲にあたり、感謝の気持ち  
が伝わることを願つて筆をとらせて頂きました。創星会の皆  
様方の益々のご発展、ご活躍を祈願しております。



いであ株式会社 環境生命科学科1期生(2017年度卒) 西山 ひろかさん

私は生態発生遺伝学研究室に所属し、学士課程を卒業後、いであ株式会社に入社しました。弊社は社会基盤の形成と環境保全の総合コンサルタントとして事業を展開しています。事業領域は環境コンサルタント事業、建設コンサルタント事業(河川、港湾、橋梁等のインフラの調査・計画・設計・維持管理・運用)、情報システム事業(防災・減災支援他システム開発)、海外事業(環境保全支援等)と多岐に渡ります。あまり馴染みのない業界かと思いますが、私の所属する環境部門では、大規模工事における環境影響を軽減するための環境アセスメント(環境影響評価)の仕事なども行っています。水質や生物などの現地調査、化学分析、数値シミュレーション及び環境影響評価書の作成・住民説明を社内の専門部署が連携して取り組んでいます。

近年は弊社にも多くの県立大出身者が入社し、現在は7名(大学院食品栄養科学専攻2名、環境科学専攻4名、環境生命科学科1名)が在籍しています。いずれも環境部門の化学分析・リスク評価に関連する業務を行う部署に所属しております。私が所属している部署では、公共用水域(河川、海域、湖沼など)の水や土壌といった環境試料や水道水を対象に、法令に基づく基準値の定められた項目の分析を行っています。私は現在、揮発性有機化合物や、放射能の分析を担当しているほか、沿岸域・港湾域の環境改善に関連する業務等にも携わっています。認知されにくい仕事ではありますが、多くの人の生活に密着している河川等の環境維持・管理に携わることができ、大きなやりがいを感じています。

建設環境コンサルタントの一員として、社会の持続的発展と環境の保全に貢献できるよう、これからも日々精進して参ります。



東京本社  
写真左から 鰐川雅花さん、西山ひろかさん、久保田通代さん、中山勇人さん



静岡環境創造研究所  
写真左から 青嶋沙奈さん、戸田美沙さん、山口夏純さん

地方独立行政法人静岡県立病院機構 栄養学科5期生 八木(旧姓:菊池)佳子さん

私は1995年に卒業し、静岡県に採用となり、病院勤めをして28年目を迎えました。2009年より地方独立行政法人静岡県立病院機構(総合病院、こころの医療センター、こども病院)となり、3病院内で異動しながら業務に従事しています。機構内に採用された県大卒業生も7人(1名育休中)となり(写真)、後輩が増えることを頼もしく感じています。今回は、病院職員としての管理栄養士について紹介したいと思います。

病院で働く管理栄養士の仕事内容は、常に変化し続けています。採用当初は、栄養指導が主流でしたが、2010年に栄養サポートチーム(NST)加算が新設されました。管理栄養士の他、医師・看護師・薬剤師・他コメディカルの多職種で、栄養状態の悪い患者に介入します。管理栄養士がNSTの事務局を担っている施設も多く、チーム医療には欠かせない立場となりました。その他にも入院患者に対し、栄養管理計画書を作成し、低栄養、周術期、緩和ケアなど様々な症例に介入し、栄養状態の改善を目標に日々活動しています。近年では、ICU病棟での早期栄養介入など、栄養管理のスペシャリストとしての能力を認められる時代になりました。病院収益は、診療報酬により成り立っている部分が大きいのですが、管理栄養士に認められる診療報酬の点数が上がっているのも事実で、活躍の場は確実に広がっています。今後は、病棟配置を求められるようになり、さらに管理栄養士の存在感が認められていく時代が来ると思います。

研修会に参加し、常に新しい知識を持って行くことは大変ですが、患者さんやご家族に感謝されることもやりがいの一つです。常に新しいことにチャレンジしていくことを忘れずに、時代の流れに乗っていきけるよう日々努力を重ねていきたいと思っています。



こころの医療センター  
石川(旧姓:柴田)知美さん



こども病院  
写真左から 土屋(野末)彩菜さん、八木(菊池)佳子さん



総合病院  
写真左から 西澤鮎奈さん、田辺(野田)沙彩さん、疋田(野崙)彩さん  
(育休中:太田(松下)亜沙実さん)

## 研究室紹介

### ■研究室の近況（食品工学研究室 下山田 真・村上 和弥）



2020年に助教の増田勇人博士が大阪公立大学に転出後、2021年に村上和弥博士が助教として着任し、新体制となりました。

現在、研究室は院生ばかりとなっていますが、1名が社会人博士課程、他3名が修士課程となっており、さらに外国人研究生1名が在籍しています。6月にはフランスで開催された International Congress on Engineering and Food 14（第14回国際食品工学会議）に社会人博士課程の院生と下山田が参加し、ポスターセッションで研究成果の発表を行いました。また、8月には日本食品工学会で村上が発表を行いました。



研究については、もともと大豆、卵などタンパク質を主体とする食品素材をターゲットに食品加工工程の見直しや加工工程における食品成分の変化について研究を進めてきました。特に豆乳については牛乳の代替品としての利用に興味と期待が高まる中、練乳としての活用をにらんで濃縮挙動の解析を中心に進めています。さらに村上助教の加入によって研究範囲は食品機能成分の溶解性や安定性といった物理化学的な性質の改善を目指した内容へと広がり、計算科学やシミュレーションを含めた領域へと深化しています。

### ■研究室の近況（食品蛋白質工学研究室 伊藤 創平・藤浪 大輔）

前任の酒井担先生からバトンを引き継いでから、中野祥吾助教と研究室を運営してきました。学士26名、修士14名、博士3名（述べ人数）が当研究室で学位を取得、社会人としてはばたきました。中野先生は、若手研究者の登竜門と言われるJSTさきがけに採択されると同時に食品蛋白質研究室を卒業、学科内に食品生命情報科学研究室を新設、准教授として活躍されています。昨年、藤浪大輔助教が赴任、5名の学生とともに、タンパク質・酵素の応用研究を進めています。社会のデジタル化が急速に進む中、情報リテラシーが必須となっています。本学部も、情報科学関連の講義を新設、文科省数理・データサイエンス・AI教育プログラムの準備をすると共に、学部独自にクラウドツールを導入、デジタル改革を進めています。



## トピックス



### 世代を超えて、歴史に刻み、未来に繋げる

#### 臨床栄養管理学研究室 新井 英一

2023年3月吉日、佐藤家の母（美紀 氏：博士後期課程修了）および娘（真維 氏：博士前期課程修了）が同時に県大を巣立って行きました。その間、父（弘和 氏：県大食品2期生）は後援会会長を長きにわたり務めていただきました（感謝です）。

次世代に伝えたい学びが「ここ（食品栄養科学部）にある」。未来に残したい、繋げたい、そう感じさせていただき、きっかけをいただきました。（私自身、娘さんを小学生の時から存じ上げていますので、感慨深かったです。）本当におめでとうございます。

## 学部棟内にデジタルカラー複合機を導入しました

創星会活動費の有効活用を目的に、令和4年度の在學生に、「学内に設置して欲しい備品等」についてのアンケートを実施しました。その中で、希望が多く、学業に役立つ物を選定し、令和5年4月に、デジタルカラー複合機を購入しました。

食品栄養科学部新棟の1階に設置され、現在、コピーやレポートの印刷等、連日多くの学生が利用しています。



食品生命科学科1年

複合印刷機を導入していただき、ありがとうございました。便利に印刷できるようになったことで、実験のレポート作成やその他多くの場面でより勉学に動じむことができています。今後も適切に活用し、大学での学びをより充実したものにしていきたいと思います。



栄養生命科学科2年

2年生に上がり、実験のレポートや授業資料の印刷など、印刷を必要とする機会が増えました。複合印刷機は、無料で利用できることや、学部棟に設置されているため利用しやすいこと、USBだけでなく、パソコン、スマートフォンからも印刷できることなど、とてもありがたい機能が満載で頻繁に利用させていただいています。これからも複合印刷機を活用して、勉強に励んでいきたいと思っています。



環境生命科学科3年

講義資料やレポートの印刷に使用していますが、多機能機種を導入していただいたためスキャン機能が使用できる点も非常にありがたいです。以前は印刷後に修正箇所を見つけても再印刷を躊躇していたため、導入によって赤入れが行いやすくなりレポートの完成度を高めることでできていると思います。

## 創星会交流支援事業報告

### 「食品生命科学科同期 (2019年卒) 同窓会」

2022年の年の瀬も押し迫った12月29日、私達、食品生命科学科第29期卒業生は、静岡駅近くの大衆酒場お志づにて同窓会を開催しました。

開催にあたりましては創星会より支援金をいただき、このような機会を設ける事ができ、心より感謝申し上げます。

久しぶりに会う懐かしい面々は今は社会人となり、県内に残っている人は少なく、それでも愛知・関東、大阪から13人が集まりました。挨拶やそれぞれの近況報告もそこそこに、時間だけは学生時代に戻ったような、変わらない笑顔と、このメンバーしかわからない思い出の数々に盛り上がり楽しいひとときを過ごしました。学生の時カラオケや、友人の部屋に集まって談笑したり会うことは当たり前で過ごしていましたが、卒業後は、コロナウイルス感染拡大の影響もあり、リモートによる飲み会等を実施する事はあっても直接会う機会はほとんどありませんでした。そんな状況が3年近く続いていた今回の開催で、顔を突き合わせて乾杯ができる喜びはひとしおでした。

年末の多忙な時期ではありましたが、仕事も休みの人が多いのでは、と考え、この時期を選び、普段簡単には会う事ができないメンバー達と集う事ができ改めて良かったと思いました。時間を忘れる程盛り上がった一次会で誰一人帰ることなく全員で二次会に向かいました。次に会う時は同じだけ年を重ね、それぞれがどんな風になっているか楽しみ、再会を約束して、私達の同窓会は、卒業アルバムの中の思い出の1ページを刻みました。

年が明け、それぞれが「今」を精一杯過ごしていると思います。同じ学生時代のひとときを胸に、いつでも戻れるこの場所を大切に、またいつか会える時まで。

(食品生命科学科29期生、 修士29期生 曾根啓貴)



## 新任教員の紹介(令和4年11月～令和5年4月着任)

### 岩瀬 麻里(助教:生体機能学研究室)



2023年4月1日付で生体機能学研究室の助教に着任いたしました岩瀬麻里と申します。私は近畿大学を卒業後、京都大学にて学位取得しました。その後米国ワシントン大学セントルイス校での博士研究員を経て、静岡県立大学に赴任いたしました。私はこれまでに脂肪組織におけるエネルギー代謝調節機構の解明や、脂肪を多く含む組織の癌である乳癌における抗腫瘍活性を持つ分子の探索に従事してきました。

静岡県立大学では主任教員の内田邦敏准教授のもとで、環境変化に応答した生体恒常性維持機構、特に脂肪組織の役割や機能に着目して研究を進めていく予定です。静岡県は自然に囲まれた魅力ある地域であると感じています。地域社会や産学官と連携した教育・研究を行い、地域および世界に貢献できるよう、精一杯取り組む所存です。創星会の皆様には、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

### 千菅 太一(助教:食品生命情報科学研究室)



2023年4月1日付で食品生命情報科学研究室の助教に着任いたしました千菅太一と申します。東京工業大学にて修士課程まで修めた後、積水化学工業株式会社へ入社しました。その後、紆余曲折を経て同大学で学位を取得し、今回ご縁がありまして静岡県立大学に赴任いたしました。

これまで、微生物が生産する二次代謝産物の生合成研究に取り組んできました。専門、と申し上げるのも烏滸がましいことですが、有機化学及び構造生物学を中心に据え、生合成酵素の中の化学を解き明かすことに努めてまいりました。本学では、主任教員である中野祥吾先生のもとで情報科学について学びを深め、情報科学とこれまで培ってきた実験科学を融合した新たな研究を展開したいと考えております。また、研究だけでなく教育を通じて本学の発展に寄与したいと考えておりますので、創星会の皆様にはご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 増井 昇(助教:植物環境研究室)



2022年11月1日付けで植物環境研究室に着任しました増井昇と申します。私は北海道大学農学院を修了後、農業メーカーの研究員として殺虫剤の開発業務に携わっておりました。北海道大学では植物の放出する揮発性有機化合物を介した植物-昆虫間のコミュニケーションに着目し、大気汚染環境下における虫害発生メカニズムを研究していました。本学では、上記研究の他、農業業界における経験を活かして植物の揮発性有機化合物を利用した害虫防除法の探索を行いたいと考えております。農業は、安定した農作物生産のために非常に有用な存在であることは事実です。しかし、病害虫の農業に対する抵抗性の獲得など、将来的には農業だけに頼らない防除法の確立が求められています。静岡県においても、ワサビやメロン、イチゴなど農業は欠かすことの出来ない貴重な産業です。研究活動、教育の中で、本学及び静岡県の発展に貢献することが出来れば幸いです。

## 異動・退職された教員

竹下(石塚)典子 助教: R5年3月異動 → R5年4月～静岡県立大学短期大学部一般教育等 准教授  
菊川 寛史 助教 : R5年3月退職 → R5年4月～北海道大学工学部応用理工系学科 准教授  
小林 りか 助教 : R5年7月退職

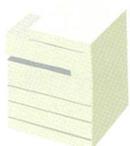


## 令和4年度創星会収支決算報告書

### 収入の部

項目	金額	備考
前年度繰越金	16,573,657	
R4年度学部生入学時同窓会費	20,000	R4年度春入学生1名入金漏れの為
R5年度学部生入学時同窓会費	1,999,854	R5年度入学生(振込手数料差し引き後)
利子	81	
合計	18,593,592	

令和4年8月1日～令和5年7月31日 会計 大石 里夏



### 支出の部

項目	金額	備考
会報:封筒印刷費	206,690	振り込み手数料込
郵送料(会報誌送料)	279,860	
第14回創星会	399,712	ホームカミングデー開催費
プリンター用コンセント・LAN増設工事	253,440	振り込み手数料込
SHRAPデジタルフルカラー複合機	605,440	振り込み手数料込
ホームページ管理費	18,820	振り込み手数料込
創星会会員交流会支援金	36,220	振り込み手数料込(1件)
卒業アルバム補助金	320,440	5000円×64名(振込手数料込)
創星会用卒業アルバム代	12,980	
アルバイト代	175,000	R4年7月～R5年6月分
慶弔費	42,192	お餞別・退官記念品・弔電・供花(振込手数料込)
寄附金	20,000	はばたき寄金
複合機力カウンター料金	17,701	R5年5月～6月分
雑費	14,361	コピー用紙、文具代等
合計	2,402,856	
次年度繰越金	16,190,736	
総計	18,593,592	

## 第14回 創星会(ホームカミングデー)を開催しました

令和4年10月29日(創祭1日目)に、第14回創星会として、3年振りとなる食品栄養科学部ホームカミングデーを開催致しました。

会場には、約110名の卒業・修了生、教員、在校生が来場しました。学祭も3年振りの開催となり、初めての創祭を楽しみながら参加された在大学生も多く、それぞれに充実した時間を過ごすことが出来ました。

### <第1部 総会>

第1部では、招待者の卒業・修了生の方々と創星会役員および教員による決算報告並びに交流会を行いました。招待者の方々からは学部の教育内容に対する意見や提案、創星会の活動等に関する要望などの貴重な意見が寄せられました。



### <第2部 在校生と卒業生・修了生との交流会>

交流会は、26名の招待者の卒業・修了生が職種別に分かれ、在校生たちは興味のあるブースに自由にお話を伺いに行きました。仕事内容や就職活動に向けたアドバイス、社会人として今から身につけておいた方がよいこと等、多くの話題について和やかな雰囲気でお話が弾んでいました。



## 就職情報、学内情報、講演会情報等のお知らせについて

創星会では会報誌の他に、メーリングリストにて創星会通信をお届けしております。

内容は就職情報、学内情報、講演会情報等です。有用な情報を発信しておりますので、是非ご登録下さい。

メーリングリストのご登録は、創星会HPのトップページ (<https://www.us-souseikai.com/>) の「連絡先の登録・変更」欄から登録できます。(携帯メールアドレス、PCメールアドレス、いずれでも登録可)

### 【住所等変更登録について】

創星会会報を送付した際に、返送される場合が多数ございます。住所や名字等の変更がございましたら、メーリングリストのご登録同様、創星会HPの「連絡先の登録・変更」欄から変更登録をお願いします。

なお、ご登録の際、確認メールが折り返し送信されます。メールが届かない場合がございますのでメール拒否設定の解除([mail@us-souseikai.com](mailto:mail@us-souseikai.com) および [souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp)) を行ってからご登録の変更をお願いします。

